

陸連時報 三

2015
平成27年

4 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2020東京オリンピックプロジェクトチームにおける競技者の発掘……………	166
(2020東京オリンピックプロジェクトチーム幹事 遠藤俊典)	
2015年シーズンの抱負(強化委員会)……………	167
国際陸上競技連盟(IAAF)持続的発展コミッション会議報告(国際委員長 田中克之)……………	171
2014年度全国競技運営責任者会議報告(競技運営委員会)……………	172
2014年度全国自転車計測員会議報告(施設用器具委員会)……………	174
第17回・第18回JAAFコーチング・クリニック報告(普及育成委員会 櫻田淳也)……………	176
国際陸上競技連盟(IAAF)医事アンチ・ドーピングコミッション会議報告……………	178
(理事・医事委員長 山澤文裕)	
大会観戦ガイド……………	179
陸協NEWS……………	180
事務局からのお知らせ……………	182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2020東京オリンピックプロジェクトチームにおける競技者の発掘 —ダイヤモンドアスリートの発掘—

2020 東京 オリンピック プロジェクト チーム 幹事 遠藤 俊典

1. 国際競技力向上のための強化システム構築：五輪の柱

山崎一彦氏（日本陸上競技連盟強化副委員長・強化育成部長／順天堂大学）をディレクターとする2020東京オリンピックプロジェクトチームにおいては、以下の5つの柱に基づく強化システムの構築を目指しています。

- 1) 強化組織の抜本的改革
- 2) 種目・競技間トランスファーの促進
- 3) 強化情報戦略の強化と拡充
- 4) 科学的サポートの徹底的活用
- 5) 指導者養成の強化

このうち、2) 種目・競技間トランスファーの促進では、石塚浩氏（日本女子体育大学）を統括とするタレントマネージャー制度によるダイヤモンドアスリートの発掘と森丘保典氏（日本体育協会）を統括とするタレントトランスファーマップ（作成プロジェクト）に基づいたタレント育成プログラムの構築との両輪を駆動することによって、東京オリンピックを基軸に据えながら、永続的に国際競技力の向上を目指し続けることのできるシステムの実践的検討を推進しています。ここでは、その一輪である「タレントマネージャー制度によるダイヤモンドアスリートの発掘」についてその具体的な内容を紹介させていただきます。

2. ダイヤモンドアスリートの選定方法と強化育成方策

1) 2014-2015メンバー

2015年1月9日に認定した第一期ダイヤモンドアスリートを表1に示しました。認定した競技者については、1年間の活動・成果をもって見直し・査定作業を行うことを予定しています。一方、今回選出されなかった競技者は、オリンピック育成競技者や各地域・各都道府県の指定・強化競技者などに選ばれていることも多いと思います。2020東京オリンピックプロジェクトチームとしては、そのような競技者のみなさんが、自身の可能性を発見し、開花していくことによって第一期生を追い越し、それぞれが2020東京オリンピックを目指していけることを期待しています。

2) 選出方法

全国各地に配置したエリア・タレントマネージャーが情報収集し、

推薦した多くの競技者を、プロジェクトチームで議論することによって厳選し、石塚統括および山崎ディレクターの承認を得て選出しました。選出のプライオリティーは、オリンピックおよび世界選手権などでメダルや入賞できるような国際競技力に発達するような素質を有していること、国際的な競技者、特に国際人として活躍するために必要な国際的教養が身につくような資質を有していること、自身の可能性を追求し極めるために、現在の種目にこだわらず世界で活躍できる種目を見出すことに挑戦できること（トランスファーの可能性を有していること）、としました。

※タレントマネージャーとは

タレントマネージャーの役割は、競技者の育成歴、発育発達段階・状況、当該種目に対する動きの質的特性、性格の特徴などを総合的に捉え、現時点から将来を見越した競技者の発掘を行うことにあります。そのために、競技会の視察・観察、合宿等のトレーニング視察・観察、関係する指導者との情報交換および情報共有を行うことによって、競技者レポートを作成しています。なお、タレントマネージャーは、上述のタレント発掘の能力以外に、陸上競技広範にわたる知識、情報の収集力および多くの指導者との連携・コミュニケーション力を重視して任命しています。

3) ダイヤモンドアスリートに対する強化育成方策

国際的な視野で陸上競技を捉えていく力を養うこと目指していく過程においては、海外での合宿、試合（転戦）、海外の著名コーチによるコーチング、海外選手およびコーチとのコミュニケーションなどの要素は不可欠であると考えています。すでに2015年の2月には、ダイヤモンドアスリート海外研修として跳躍を専門とする平松祐司選手と佐久間滉大選手がスウェーデンで合宿および競技会参加を行い、短距離を専門とする山下潤選手、北川貴理選手、岩本武選手、サニブラウン・A ハキーム選手がオーストラリアで研修合宿を行いました。さらに、3月には北口榛花選手がやり投王国フィンランドでの研修合宿を予定しています。今後は、海外転戦、海外および国内の強化拠点の整備、ダイヤモンドアスリートの専任コーチの指導力養成、などに着手しながら強化育成方策の体系化・組織化を図っていきたいと考えています。

表1 2014-2015ダイヤモンドアスリート

【男子】		※学年は2015年1月現在		
種目	氏名	所属	都道府県	学年
短距離・障害	山下 潤	県立福島高等学校	福島	高2
	犬塚 渉	浜名高等学校	静岡	高2
	北川 貴理	敦賀高等学校	福井	高3
	岩本 武	京都両洋高等学校	京都	高3
	サニブラウン・A ハキーム	城西大学附属城西高等学校	東京	高1
跳躍	平松 祐司	西城陽高等学校	京都	高3
	佐久間 滉大	法政大学第二高等学校	神奈川	高3
投てき	池川 博史	滝川第二高等学校	兵庫	高1

【女子】		※学年は2015年1月現在		
種目	氏名	所属	都道府県	学年
短距離・障害	藤森 菜那	浜松市立高等学校	静岡	高2
長距離	高松智美ムセンビ	薫英女学院中学校	大阪	中3
投てき	北口 榛花	旭川東高等学校	北海道	高2

2015年シーズンの抱負

強化委員会

【男子短距離部】

男子短距離部長 苅部俊二

2015年シーズンは、北京世界選手権を始め、ワールドリレーズやアジア選手権など目標とすべき多くの世界大会がある。中でも北京世界選手権は、来年のオリンピックを見据えた大会となる。また、ワールドリレーズも8位入賞のチームに2016年リオデジャネイロオリンピックの出場権が与えられることから、シーズン前半のもっとも重要な大会に位置づけられる。

男子短距離ブロックは昨年からナショナルリレーチームを編成し、2015年度は23名を選出した。このナショナルリレーチームを中心としてリレーの強化にあたる。今回のナショナルリレーチームは4×100mリレーと4×400mリレーに分けて選出せず、100mから400mまでの競技者を1本化した。したがって、専門種目にとらわれず適性を判断したうえで代表リレーチームを編成する。

4×100mリレーはすでに2014年ワールドリレーズにおいて5位入賞を果たし北京世界選手権出場枠を獲得している。本戦では上位入賞を目指す。そして、2014年仁川アジア大会で中国に破られたアジア記録を奪還したい。4×400mリレーは北京世界選手権の出場はまだ確定していない。2014年ワールドリレーズで出場枠を獲得できなかったため、北京世界選手権に出場するには、出場の決定した8か国を除いた世界ランキングで、上位8位以内の記録が必要である。そこで、5月に開催される2015年ワールドリレーズと6月のアジア選手権で世界ランキング上位の記録をマークすることが求められる。本戦出場に向け万全を期して臨まねばならない。

個人種目では、ショートスプリントが充実してきている。100mでは山縣亮太選手（慶應義塾大学→セイコー）、桐生祥秀選手（東洋大学）や高瀬慧選手（富士通）らを中心として、1998年から更新されていない日本記録の更新を達成したい。また、200mでは彼らに加え、飯塚翔太選手（ミズノ）、高平慎士選手（富士通）や藤光謙司選手（ゼンリン）といった経験豊富なスプリンターが順調であり期待がかかる。

ロングスプリントは、ショートスプリントと比べ比較的世界大会で結果を残せていない印象があるが、2014年仁川アジア大会では、4×400mリレーで2位以下を引き離してレースを制し、着実にレベルをあげている。エースである金丸祐三選手（大塚製薬）を軸として、加藤修也選手（早稲田大学）や油井快晴選手（順天堂大学）などの若手も成長してきており一人でも多く北京世界選手権の参加標準記録を突破してくれることに期待する。

これまで、男子短距離ブロックは、日本陸上競技連盟の医事委員会・科学委員会、情報戦略部とのネットワークを密に強化を推し進めるとともに日本スポーツ振興センターのマルチサポート事業を最大限に活用し、結果を残してきた。この連携をさらに強固なものにし、ナショナルリレー

チームメンバーの指導者の協力を仰ぎながら選手強化に取り組んでいく。

また、2020年東京オリンピックを見据え、U23やU19との連携をより深める。U23やU19の競技者でも日本代表クラスの実力を持つものは早期にシニアに引き上げることを検討する。

【女子短距離部】

女子短距離部長 瀧谷賢司

2014年度シーズンの結果からナショナルリレーチームのメンバーを編成した。

【4×100mリレー】

福島千里（北海道ハイテクAC）、土井杏南（大東文化大学）、藤森安奈（青山学院大学）、伴野里緒（七十七銀行）、北風沙織（北海道ハイテクAC）、渡辺真弓（東邦銀行）、柴山沙也香（至学館高校）、エドバー・イヨバ（東京高校）

【4×400mリレー】

青山聖佳（松江商業高校→大阪成蹊大学）、松本奈菜子（浜松市立高校→筑波大学）、市川華菜（ミズノ）、千葉麻美（東邦銀行）、青木沙弥佳（東邦銀行）、吉良愛美（アットホーム）、小田垣亜樹（立命館大学）、石塚晴子（東大阪大学敬愛高校）

2015年ワールドリレーズ（バハマ・ナッソー 5月2日～3日）はリレー種目にとって目標となるリオデジャネイロオリンピックへと繋がる強化戦略上重要な意味を持つ大会となるため、本大会に向けてはリレーへの適性などを見極めた上でベストメンバーを派遣し世界選手権の出場権獲得を目指したい。ワールドリレーズの選考に関しては織田記念陸上（4月18日～19日）の結果とナショナルリレーチーム合宿（鹿児島県・日置市 3月24日～29日）の様子を総合的に判断してメンバー（4×100mリレー5名、4×400mリレー5名）を選出した。

2015年の目標として、北京世界選手権を最大目標と位置付け、リオデジャネイロオリンピックに繋がられる一年としたい。日本女子短距離の歴史を変えるチャンスは100m、200m、400m、4×100mリレー、4×400mリレー全種目の日本記録更新と世界選手権出場権獲得であると思っている。そのためには選手、専任コーチ、強化スタッフの連携を深め、強化戦略の共通理解や意識改革を図り、グローバルスタンダードで戦える条件を確立しなければならない。

個々の選手に目を向けると、福島千里選手（北海道ハイテクAC）がすでに100mの世界選手権参加標準記録を突破しており、自信を持って今シーズンに向けて準備を進めている。ロンドンオリンピック以降、もどかしい気持ちがあった中でも試行錯誤を繰り返し、研鑽を積んできたことが昨シーズン後半のアジア大会や国民体育大会において形になりつつある。日本記録樹立時に戻すというよりも進化するために、昨年は単身でオーストラリアに渡り、現地コーチ

動車)、走高跳では戸邊直人選手(千葉陸協)、衛藤昂選手(筑波大学)、高張広海選手(日立ICT)らをヨーロッパでの室内競技会に派遣して、アウトドアに向けた準備を行ってきた。

ここでの結果は、棒高跳では、萩田選手が北京世界選手権の標準記録突破となる5m65を跳躍して順調な仕上がりをみせた。また走高跳では、戸邊選手と高張選手が2m25を跳躍し、こちらも及第点以上の記録を残すことができた。特に、高張選手はアウトドアでの自己記録に並ぶ跳躍を行ったことでアウトドアに向けて自信を深めているようであった。

一方、2020年の東京オリンピックに向けてのプロジェクトとして、強化育成部と連携し、平松祐司選手(西城陽高校→筑波大学)、佐久間滉大選手(法政第二高校→法政大学)、城山正太郎選手(東海大学北海道)、高橋佑悟選手(立命館大学)の若手4選手をスウェーデンに派遣した。そこではクリスチャン・オルソン(アテネオリンピック男子三段跳優勝)を指導したヤニッチ・トレガロ氏からのコーチングを受ける機会も得ただけでなく、インドアの競技会にも参加して海外での試合経験を積むこともできた。ここでは平松選手が2m17を越え、元気なところをみせた。

さて、今季についての抱負を述べる。

まずは走高跳となるが、男子では、前回のモスクワ世界選手権で棒高跳が3選手を派遣したように走高跳でも3選手を北京に送りたいと考えている。これに近いのは、やはり戸邊選手、高張選手、衛藤選手が中心となると思われるが、この3選手に加えてジュニアの平松選手、中澤優選手(富山商業高校→東海大学)にも期待がかかる。2月にジュニアと合同で行った沖縄合宿では平松選手と中澤選手がそれぞれ2m20、2m15を練習で成功し、シニアにも大きな刺激を与えた。お互いに負けられない環境の中、レベルの高い争いができれば、出場機会の可能性も現実のものになると感じている。

続いて棒高跳であるが、ここでも前回同様に3選手を北京に送りたいと考えている。候補となるのはすでに標準記録を突破している萩田選手、前回6位入賞の山本選手に加えて、ベテランの澤野大地選手(富士通)である。こうした3選手に加えて走高跳と同様に若手選手が台頭してくると代表争いが面白くなると期待している。

このところ世界大会に代表を派遣できていない走幅跳では、ベテランの菅井洋平選手(ミズノ)、大岩雄飛選手(モンテローザ)らを中心にまずは標準記録(8m10)の突破を狙って欲しいと考えている。彼らに昨年の世界ジュニア銅メダリストの城山選手、佐久間選手らに加わり、切磋琢磨した争いをすれば標準記録突破の可能性もさらに上がるだろう。まずは3月のオーストラリア・オープン、4月のMt.SACリレーなど、条件の良い試合をきっかけに、日本選手権までの記録突破に期待している。

三段跳についても走幅跳と同様に近年世界大会に選手の派遣ができていない。したがって、まずは選手を北京に送ることを目標としたい。それには昨年アジア大会で8位に

入賞した山本凌雅選手(順天堂大学)を中心に、若手の高橋選手、ベテランの岡部優真選手(九電工)、長谷川大悟選手(日立ICT)らとの争いから標準記録(16m90)が目指すべき記録となる。

女子については、北京世界選手権の出場の可能性が高いのは棒高跳の我孫子智美選手(滋賀レイクスターズ)であろう。我孫子選手は昨年の仁川アジア大会でも日本女子跳躍陣で唯一となる銀メダルを獲得したように大きな試合で力を発揮するところが強みである。日本グランプリシリーズなどを通じて自己の持つ日本記録を更新し、ロンドンオリンピック以来となる世界大会出場を果たして欲しいところである。

今年は日本選手権の前にアジア選手権が武漢(中国)で開催される。こうした大会もうまく活用し、一人でも多くの選手が世界大会への出場権を獲得するだけでなく、大会本番では、来年のリオデジャネイロオリンピックへつながる足掛かりを掴んでもらいたいと考えている。

【投擲部】 投擲部長 等々力信弘

主要強化選手からは大きな問題なく冬期トレーニングを消化できていると報告を受けているので、シーズンへの移行トレーニングを問題なく実施し、各選手順調にシーズンインができると思われる。例年シーズンインに好記録を出す選手が多いので、北京世界選手権・武漢アジア選手権に向け、春先から好記録を期待し、各種目については、それぞれ下記のように強化に取り組みたい。

砲丸投においては昨年日本選手権で18m50を投げた畑瀬聡選手(群馬総合ガードシステム)に19m以上を期待したい。また18m越えに山元隼選手(中京大クラブ)、宮内育大選手(日本大学)、17m50に佐藤征平選手(国士館大学)、鈴木孝尚選手(OKUWA)、中村太地選手(国士館大学)とここ数年選手層に厚みが出てきているので、今後国際大会でのメダル獲得を実現させるためにもこうした一人一人の記録向上で、全体の底上げを目指したい。

4年前から実施している回転投げの強化も継続実施し、山元選手、中村選手、森下大地選手(筑波大学)には特に技術向上、記録更新を期待したい。

女子砲丸投については低迷期ではあるが、男子より世界には近いのでタレントの発掘を進めたい。

円盤投においては昨年、堤雄司選手(群馬総合ガードシステム)が60m05をマークし、日本記録まであと17cmと迫った。2015年シーズンには36年ぶりの日本記録更新が期待される。また、今後の世界選手権、オリンピックを見据え、まずはアジア選手権などの競技会で力を発揮し、上位入賞を獲得することが要求される。2014年シーズンには、2名の大学生(安保建吾選手(東海大学)、米沢茂友樹選手(東海大学))が55m越えを果たす好投をみせており、この二人の学生を中心に若手選手がどれだけ60mに迫ることが出来るかが、近い将来、世界規模の競技会で日本選手が活躍するためには重要な課題となる。近年、ベテラン畑山茂雄選手(ゼンリン)を中心とした強化合宿の体制が充実して

おり、55mを越える選手が6名と過去最高となった。2015年度は円盤投ブロックとして世界の舞台につながる成果を残し、同時に女子競技者に対する強化体制や環境の改善も進めたい。

ハンマー投については、今シーズン室伏広治選手（ミズノ）の日本選手権21連覇への挑戦が一番の注目を集めると思われるが、まずはアジアで活躍出来る選手の輩出を課題とし、男子では昨シーズンも70mを越えている野口裕史選手（群馬総合ガードシステム）、若手選手の赤穂弘樹選手（鳥取陸協）、田中透選手（チームミズノアスレティック）などで、まずはアジア選手権への出場を、女子については、綾真澄選手（丸善工業）の力が抜けているが、知念春乃選手（日本体育施設）、渡邊茜選手（丸和運輸機関）など、これから記録向上が楽しみな選手も出てきているので期待したい。ハンマー投強化としては、ここ数年定期的な合宿の実施が出来ておらず体制や環境の充実を今期はかりたい。

やり投については、今期リオデジャネイロオリンピックの前哨戦となる北京世界選手権に向け、男子では2014年度世界ランキング6位の新井涼平選手（スズキ浜松AC）を筆頭に、村上幸史選手（スズキ浜松AC）、ディーン元気選手（ミズノ）などに、女子では海老原有希選手（スズキ浜松AC）を筆頭に、宮下梨沙選手（大体大T.C）、久世生宝選手（筑波大学）などにそれぞれ参加標準記録を突破させ、男女ともに世界選手権へ複数名エントリーさせることを目標とし、その中から上位入賞、メダル獲得を目指したい。また、上記の選手以外にも、男女ともにあと一步で世界レベルに達する選手が多く存在しており、それらの選手に対しては、いくつかの大会や研修合宿などによって強化を図りたい。さらに、選手だけでなく、指導者に対する研修も積極的に行い、やり投の指導体制全体の質的向上を図りたい。

【混成部】 混成部長 本田陽

2008年の北京オリンピック（混成ブロックからの代表派遣なし）以降2016年のリオデジャネイロオリンピックまでの長期計画における最後の2年となる2015年～2016年シーズンは長期プランの集大成となる最も重要なシーズンであり、混成ブロックとしてはこの2年間がワンセットであると認識している。男子においては、昨年の仁川アジア大会で右代啓祐選手（スズキ浜松AC）が国外初となる8000点突破で金メダル獲得、中村明彦選手（スズキ浜松AC）の日本選手権混成における日本人2人目となる8000点突破など、2013年シーズンにおいて達成できなかった諸目標がクリアでき、長期計画が当初の軌道に戻った。

今シーズンの最大の目標は北京世界選手権での入賞及びそれによるリオデジャネイロオリンピック代表枠早期確保であるが、その目標達成のためには北京世界選手権本番で8200点後半から8300点の記録をマークすることが必要となる。昨年の仁川アジア大会における経験から日本人2名が代表として参加することの大きなメリットが確認できたので、そのためにも右代選手以外にさらに1名（現時点では中村選手が有力）を代表として世界選手権に派遣したい。

右代選手はすでに世界選手権参加標準記録（8075点）を突破しており、選考基準により日本選手権8位入賞で代表が内定となる。右代選手に関しては8月28日～29日の世界選手権本番一本に向けて仕上げて行く予定である。冬季におけるアメリカ合宿などでしっかりと練習ができており、4月以降大会本番にピークをあわせて行くことが最大課題である。

右代選手に次いで2人目の選手を世界選手権に派遣するには、まず6月3日～7日（混成競技日程未定）中国・武漢で開かれるアジア選手権で優勝し、IAAF（国際陸連）の規定による世界選手権出場資格を得ることであるが、その他にも期間内に参加標準記録を突破し、日本陸連の選考で選ばれること、十種競技のエントリー数が32に満たない場合はIAAFから参加標準を突破していない選手に対し世界ランキングに応じて参加招待（インビテーション）が出され、それによって出場するケースなどがある。このような形態での世界選手権出場はIAAFによる参加資格の変更により今回始めてとなるため、不確定要素が大きい。混成ブロックとしては6月のアジア選手権優勝による世界選手権出場資格獲得を最優先していく予定であり、日本グランプリシリーズの結果から男子はできる限り2名をアジア選手権に派遣したい意向である。

リオまでの長期計画が順調である一方、男子においては2020年の東京オリンピックに向けて第2、第3の右代選手を育成していくことが急務である。音部拓仁選手（富士通）、川崎和也選手（順天堂大学）、潮崎傑選手（滝川第二高校→日本大学）などの3世代にわたる選手たちをそれぞれの環境でいかに大きく成長させて行けるかが課題である。

女子においては昨年同様国際舞台で戦える状況ではなく、その基盤を築いている最中である。そのためにはまずアジアレベルで戦える選手を複数育成することが優先課題となる。

現在高校生・大学生の七種レベルは近年アップしており、特に高校生における5000点突破選手の台頭が著しい。この層の厚さを日本記録に届く可能性のある選手に育成していくことが最大の課題であり、この数年来なかなか実行できていない課題である。

昨年高校生として多種目にわたり大活躍したヘンブルヒエ選手（京都文教高校→中央大学）や高校1年生から毎年常に七種で活躍してきた澤田珠里選手（白梅学園→東京学芸大学）、昨年400mH選手として世界ジュニアにも参加した伊藤明子選手（筑波大学）などの選手を大学でいかに順調に育てて行くかと共に高校時代大きな活躍は見せなかった選手や他種目から七種に転向した選手で大学から大きく伸びてきた選手を大学～社会人にかけてしっかりとサポートしていく体制を作って行きたい。

現在の女子混成選手においては、日本陸連による合宿などの中央集権的強化対策よりも、選手のホームにおける練習環境の改善やサポート、国際感覚を養うための海外遠征事業などの対策が有効であると考える一方、単独種目の選手を混成選手に転向させる種目トランスファーなどの対策を日本陸連主導によって遂行していくことも重要である。

国際陸上競技連盟 (IAAF) 持続的発展コミッション会議報告

国際委員長 田中克之 (IAAF カウンシル・持続的発展コミッション委員)

2015年1月30日モナコにおいてIAAF持続的発展コミッションが開催されたところその討議概要は下記の通りである。

今次会議の主要な討議ポイントは(1)「より良い世界を作るための陸上競技」(ABW: Athletics for a Better World)、(2)各加盟団体による環境保全プロジェクトの実施状況、(3)今後の持続的発展コミッションのあり方であった。

なお、今次会議は2011年のIAAF役員選挙後に任命されたメンバーによる最後の会議であった。また、環境保全を任務とするコミッションとして、やや遅きに失した感があるが、初めてのペーパーレス会議(代わりにUSB使用)であった。

1. 「より良い世界を作るための陸上競技」

(ABW : Athletics for a Better World)

ABWは世界の陸上競技選手や陸上競技イベント主催者などの協力を得て、寄付金を集め、これを恵まれない社会層の状況改善に用いたりして「より良い世界作り」に貢献しようというIAAFの社会貢献活動である。この活動は持続的発展コミッションのイニシアチブで約一年前に開始されたものである。これに関して事務局から次の通り詳細な説明が行われた。これらの説明に関連し委員から「結果的にいくらの寄付金があり、どのように使われたのか」などの質問が行われたが、このABW活動が開始されてから未だ日が浅いことや競売がパートナーシップ協定を結んだ相手方の手によって行われるため事務局も十分結果を把握するに至っていない由であった。

(1) ABW活動の4本柱:

- ①健康増進 ②環境保全 ③社会的包摂 (Social Inclusion)
- ④平和増進

(2) 寄付金の用途

- ①ABW活動普及のためのマーケティング活動
- ②施設建設 (例えば食事を与える「貧困者救済施設」の建設など)
- ③ロジスティクス (例えばABW活動対象大会 (会議) 参加者の輸送)
- ④ABW活動の対象となる大会あるいは会合の場所の借り上げ
- ⑤Tシャツ、ポロシャツ、帽子など参加者へのギフト
- ⑥ABW活動に参加する選手、医者、栄養士等への謝礼

(3) ABW活動が陸上競技界へ与える効果

- ①陸上競技の一般社会への浸透
- ②「陸上競技」が大会に参加するエリート選手だけのものではなく、楽しみと健康の増進に繋がる「家族で楽しめる競技」であるとの認識を高める。
- ③エリート選手の「社会への還元」意識を高める。
- ④陸上競技は「貧富の如何を問わず老若男女が参加可能な競技である」との認識を高める。
- ⑤「エリート陸上競技選手が一般社会との絆を大切にしている人間である」ことをPRする上でこの上のないツールとなる。
- ⑥陸上競技界が「教育に貢献」し「健康増進と環境保全」とも深い繋がりがあるとの認識を高める。

(4) ABW活動状況

- ①ABWの最初の具体的な活動は2014年3月29日のコペンハーゲン(デンマーク)でのIAAF世界ハーフマラソン選手権大会で開始した。同大会組織委員会とパートナーシップ協定を結び、参加した228名のエリートランナーから衣服やシューズの無償提供を受けることが出来た。また、これらの提供物は一般競売にかけられ、収入金はABW活動に充てられることを一般に周知した。
- ②2014年には第12回カベンダリア平和レース(ケニア)主催団体など8団体(組織)と同様のスポンサー協定を締結した。2015年には英国のLeap2017や日本のSport for Tomorrowなど7団体と同様の協定を結びたいと考えている。

(5) 今後やるべきことは①活動のレビュー(寄付金が適正に使用されたか、活動内容の是非、ABW活動目的の達成状況等)についてのレビュー、②ABW活動資金集めの継続、③ファンド・レージング活動に年間を通して協力してくれるスポンサー探し、④今後のWAS大会(IAAF主催大会)でABWのビジビリティを高めることなどである。

2. 環境保全分野でのIAAF加盟団体の実績

事務局から2014年のワールド・アスレチック・デー(WAD)にIAAF加盟団体が行った環境関連事業について次の報告が行われた。

- (1) 213の加盟団体に137団体がWAD行事を行ったが、提出された報告書によると、環境関連事業の実施状況はつぎの通りであった。
 - ①41加盟団体が実施。
 - ②70加盟団体は不実施。
 - ③26加盟団体は言及なし。
- (2) 因みに「実施した」とする41加盟団体の環境関連事業の内訳は次の通りである。
 - ①15加盟団体が植樹、②3加盟団体が植樹と清掃、③7加盟団体がecological activityと記述、④8加盟団体が清掃、⑤1加盟団体がサイクリング、⑥7加盟団体が内容不明。
- (3) 過去4年のWAD参加加盟団体数と環境関連事業実施加盟団体数を図示すると次の表のようになる。環境関連事業実施加盟団体数が低減していることは明らかで、コミッション委員から①各加盟団体の環境保全への認識を高めること②更に環境関連事業実施のコミットメントをさせること③そのためにもベンチマークとなるような良い具体例をIAAFから示すことが必要だと指摘がなされた。

年	WAD参加加盟団体数	環境関連事業実施加盟団体数
2011	162	61
2012	163	79
2013	123	70
2014	137	41

3. 持続的発展コミッションの今後のあり方について

- (1) 今次会議に欠席した韓国の朴委員から書面にて今後の本コミッションのあり方について次のような意見が寄せられた。
 - ①持続的コミッションは設立されてから8年になるが十分その役割を果たして来たとは言えない。その一つの原因はコミッションへの付託事項が幅広く過ぎることにある。現在の付託事項には社会発展、スポーツと文化、人道的活動、国際協力等も入っている。ものには順序というものがある。やるものから一つ一つやって行くのが良い。
 - ②このため当面のターゲットを次の4つに絞ることを提案する。
 - (イ) スタジアム建設のガイドライン作り(クラス1のスタジアムは3万人収容が条件の一つとなっているが、最高収容人員については言及がない。今日建設されるスタジアムはほとんど大きくなる傾向がある。8万人もの観客が集まれば交通渋滞など種々の環境問題を引き起こす。従って収容人員の上限を規制するようなガイドラインを作成すべきだ)
 - (ロ) 大きな陸上競技選手権大会を開催するとゴミの問題が出てくる。またどのような種類の電力を使用するかという問題(太陽光が火力かという問題)が出てくる。従ってIAAFはこのような問題をどのように処理すべきかガイドラインを作成すると良い。
 - (ハ) 広報のやり方(環境保全の重要性を陸上競技を通じてどのように分からせるかその手本を示す)
 - (ニ) 植樹(環境汚染を押さえるための植樹の重要性は説明の要がない。IAAFは各加盟団体に地域ごとの植樹の時期、植樹地域、植樹に適した木の種類など指導すべきである)
- (2) これについて種々の意見が各委員から述べられたが、結論として「朴委員の示唆は的を射たものであるが、現委員による持続的発展コミッション会議はこれが最後であるため、新しい委員による討議に引き継がざるを得ない」ということになった。なお、各委員からは次のような指摘も行われた。
 - ①確かに付託事項は幅広いが実際にこのコミッションがやって来たのは植樹等の環境保全関連事業と「より良い世界を作るための陸上競技」(ABW)の二つだけだ。他のことには殆ど関心を払ってこなかった。
 - ②このコミッションのイニシアチブで「環境保全に努める」趣旨のIAAF憲章改正を実現した。
 - ③このコミッションの要求により、世界陸上選手権大会の候補地にIAAFの評価委員会が訪問する際には「レガシー」のカテゴリーの中で、どのような持続的発展関連のプロジェクトを実施するのか議論するようになってきている。

2014年度全国競技運営責任者会議報告

競技運営委員会

標記の会議を2015年2月14日（土）、15日（日）味の素ナショナルトレーニングセンターで開催した。

以下会議の概要を報告する。

第1日（2月14日）

1. あいさつ 尾縣 専務理事

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて周囲では既に動き始めており、我々も真剣にオールジャパン体制で準備する必要がある。

吉儀 理事・競技運営委員長

今年度の各種競技会が間もなく滞りなく終了する。皆さんのご尽力に敬意を表したい。

我が国の競技運営は素晴らしく全く不安はないが、国際競技会では言葉の疎通が大事になる。2020年に向けての運営、さらにその遺産を次につなげて頂くためご支援をお願いしたい。

2. 事務連絡 山田 審判部幹事

交通費支給について、資料の残部、審判手帳用短冊の説明。

3. 競技会実施報告（日本選手権：福島、IH：山梨、全中：香川、国体：長崎、ジュニア・ユース：愛知）文書報告のみ。

4. 国際競技会報告 阿保 副委員長

英語の通じない競技者がおり、手振りで説明をせざるを得なかった例もあった。競技者、競技役員も英語の訓練が必要。

関 事務局国際専任部長

競歩における「ピット・レーン・ルール」の説明や、海外でのトラブル事例を紹介。

5. 2015年度競技規則・駅伝競走規準修改正提案

鈴木 副委員長

①2015年度規則修改正

4月からの改正点について、条文ごとに説明した。特筆すべきは、第119条 上訴審判員をジュリー（Jury）、第133条 場内司令をマーシャル（Marshal）に改名する、第147条 混合レースが認められる条件として、参加者が極端に少なく男女別々での実施が非効率的である場合に限る等があった。

②駅伝競走規準修改正

現状の駅伝運営の状況に合わせた修改正を行った。特筆すべきは、第6条 中継線から進行方向20mの間に手渡しで行わなければならない、中継線の手前からたすきを投げたりしてはならない、第9条2 たすきは必ず肩から斜めに脇の下に掛けなければならない、第9条3 たすき渡しに際して、前走者がたすきを外すのは中継線手前400mから、次走者がたすきを掛けるのは中継後200mまでをおおよその目安とする、である。

6. 競技運営上の諸問題1

①跳躍競技で踏切位置を審判員が教えることは是非

岩崎 審判部副部長

陸連としては、適切な審判活動を阻害するのではないかという懸念がある。オリンピックを控え、世界的な流れも意識し、共通認識としたい。

各都道府県からのご意見をいただき、陸連見解として、練習時に教えることは差支えないが、競技が始まればルールに抵触する可能性があるのでもやるべきでない、ということで1年間行っていただきたい。

②跳躍競技における後追い助走練習 岩崎 審判部副部長

後追い練習については、非常に危険であるという観点（前の選手が急に止まるかもしれない等）から、やめるよう指導してほしい。

③300m競走の運営方法 鈴木 副委員長

300m競走でアジア最高記録が樹立されたが、記録公認条件を満たしていないことが判明した。

スタート位置を直走路状に延長して設定するのは規則に反するので、スタートラインはトラックの円周部分とする必要がある。

7. JTO活動総括 中島 審判部委員

トラック&フィールド19大会34名、道路競技14大会14名で33大会48名の派遣。皆様のご指導のお陰で大きなトラブルの報告はない。

次回大会のみならず次々大会からの視察も増えている。見るだけでなく実際に審判員として編成に入って頂くことで、より有効な視察になる。

8. JTO研修会報告 岩崎 審判部副部長

研修は14項目。15分発表+10分質疑応答。

資料・報告内容共に大変有意義だったとの感想が得られた。

9. 2020年オリンピックに向けての競技会運営・審判育成について 鈴木 副委員長

財政が固まっていないので、現時点ではあくまで構想であり保障はできない。

研修計画＝英語研修、ルールの和英対訳、Refereeの和訳版、2017年に役員調整打診等。

リハーサル構想等の説明。

10. 施設用器具委員会報告 高木 委員

資料をもとに、重要な変更点の説明があった。

①2014年度の規則修改正の対応

②2015年度の施設用器具委員会関係の規則修改正

11. 新審判ハンドブックについて：編集方針等の報告

岩崎 審判部副部長

方針…ルールブックからの丸写しは極力削除する。すでに周知されているような内容は、コラムも含めて削除する。

・発行を2015年4月1日とし、価格は値上げする。

12. 質疑応答

(京都：長屋) 投てきの練習について、持ってもいい物
悪い物についての基準はあるのか？

(陸連：鈴木) いろいろなケースが過去にあった。(ほ
うき、旗、シューズ等) これについてはトラブルの
もとであるので注意をした。タオルであれば許容す
る範囲であるのではないか？

第2日(2月15日)(分科会…競技部会)

あいさつ 伊地知 競技部長
いつも決まった内容でもあるが、一日よろしくお願
いしたい。

事務連絡 杉本 競技部幹事
本日の流れの説明。

1. 公認競技会開催申請 井上 競技部委員
公認競技会の開催申請手順のお願いや第一次申請の
確認の他に、2014年度の問題点について対策をお願い
した。

2. 記録公認の申請 赤峰 競技部幹事
大会終了後すぐに記録を申請してほしい。また、中
止の連絡、各団体のホームページ更新と共に申請をし
てほしい。

(今年度の課題について…ベースボールマガジン社高
橋氏)

おおよそ3900件の競技会の記録を集計。

ID、パスワードを申請していない都道府県がある。
ぜひお願いしたい。

3. 日本記録申請に必要な資料 羽田 競技部委員
申請は30日以内で行う。陸連主催であっても、申請
は各都道府県が行わなければならないので、申請を忘
れないでほしい。

4. TICについて 関根 競技部副部長
普段の競技会では、TIC以外の部署で行っている場
合もあるので、大規模大会のない都道府県についても
確認してほしい。

5. ポストイベントコントロールについて 田中 競技部委員
いわゆる競技が終了してからの流れ(ミックスズー
ンから競技者が場外へ退場するまで)を「ポストイベ
ントコントロール」とした。

6. 公認競技会規程、公認記録規程(案)、日本記録
の種目について 伊地知 競技部長
昨年の理事会で公認競技会規程が制定された。その
内容について、資料をもとに説明があった。

(分科会…審判部会)

1. S級公認審判員昇格審査結果について 梶田 審判部幹事
241名の申請のうち238名を昇格候補者とした。各陸
協にチェックリストを配布し、ご協力頂いたおかげで
ミスが少なかった。

2. 競技運営上の諸問題2

①競歩における男女混合レースの運営方法

佐藤 審判部委員

最後の1周で競歩審判員が直走路に集まると、それ
以外の約150mにおいて審判員不在の状態となる。→

対応策：主任が最後の100mの判定に加わり、他の
審判員はそのままの位置にとどまる。

吉儀 競技運営委員長

5000m以上の男女混合レースに関する147条「出場
人数が少なく、時間短縮ができる場合に限り」の文言は、
日本の主張に沿ってルールに明記された。

②ハードル競走におけるハードルの越え方

鈴木 副委員長

現在の陸連見解：飛越動作がはっきり見られれば、
ハードルの下を脚が通過している場合以外は問題なし
と考える。監察員が見極める台数の限界、競技レベル
の高低での配慮など、考慮すべき点も多い。

③ジャベリックスローにおける助走距離計測の指導

鈴木 副委員長

ジャベリックスローの助走路脇にメジャー(リボン
ロット含む)を用意し運営の円滑化を図りたい。予選
会においても同様の試みをお願いしたい。

④スタート警告時のアナウンス解説 中島 審判部委員

スタートやり直しの場合、観客には何が起きたかが
わからないことが多い。実際の映像をもとに解説。

⑤200m競走でのスターターの位置 鎌倉 審判部委員

現在のスターターの推奨位置では、微妙な動きの確
認ができないとの指摘があったので推奨位置を再提案。

(全体会)

1. 分科会報告 (競技部) 伊地知 競技部長
(審判部) 岩崎 審判部副部長

2. 事故防止DVD 鈴木 副委員長
インターハイで投てきで2年連続事故が起きている。
そういったことからDVDが作成された。見ていただき、
安全に競技会を運営してほしい。

3. 全体質疑応答

(三重：東浦) 社会人の個人登録の際は「〇〇陸協」
としているが、実業団登録では「〇〇高教」である。
記録の整理が煩雑になるが、いい方法はないのか？
(陸連：伊地知) 陸連登録名で処理してほしい。

4. コメンテーターより 藤田 特別委員
2日間の会議の内容をしっかりと各都道府県に持ち
帰って欲しい。

5. 事務連絡 梶田 審判部幹事
ネームプレート回収、昼食、短冊、手帳の確認、冊
子の販売

6. 閉会あいさつ 吉儀 競技運営委員長
この3月をもって、10年務めた競技運営委員長の任
を終える。任期中の大きな事業として、JTO・JRWJ
の部署の制定・養成、ハンドブックの改訂、審判員カー
ドの無償配布を実現することが出来た。皆様のご理解
とご支援に厚く御礼を申し上げる。

2014年度全国自転車計測員会議報告

施設用器具委員会

日時：2015年1月31日（土）
10：00～17：00
2月1日（日）
9：00～15：20

場所：会議 江東区夢の鳥競技場
会議室
実技 江東区夢の鳥競技場
周辺

出席者：自転車計測員56名（新規
3名含む）、施設用器具委員会委員6名
陸連事務局 関幸生 井上博友 小原由美子

施設用器具委員会では、2年おきに全国自転車計測員会議を開催している。今年度は各都道府県より56名が推薦（新規3名）され、2日間の会議に参加した者が2015・2016年度の自転車計測員として活動していくことになる。

以下は2日間の会議の概要である。



平塚和則委員長 開会挨拶

【第1日】 司会（飯村光夫検定員） 会議

自転車による道路コース計測の基本（新規計測員対象の講義）
（平塚和則委員長・福島信久検定員・桑原義貴検定員）

- 1) 自転車計測の基本的な知識
 - ① マラソンコース検定について
 - ② カリブレーションコースについて
- (2) 正確な計測方法
- (3) 計測と計測結果（計算）の報告について
※ 自転車計測の必要物品について
～カウンターの取り付け練習を実施～

開会のことば（小池一好副委員長）
挨拶（平塚和則委員長）

本日56名+本部+陸連事務局が出席。新規は3名。その他は前回と同じ。2年に1度の会議なので計測について等意見・情報交換を行ってほしい。本日、日本経済新聞にマラソン計測について掲載された。最近注目されている。2日間、ベテランの計測員から多くを学んでほしい。

陸連事務局の紹介

1. 自転車計測の概論（講師：松川良紀検定員）

- ・ワイヤー計測についての説明
検定メジャーからワイヤーに50mを写す。そのワイヤーを持ってコースを測る。相談しながら進むことができる。休憩を入れることができる。
- ・自転車計測についての説明
検定メジャーで400mのコースをつくる。400mをカウントいくつで回るかを測る。ワイヤー計測は検定メジャーをワイヤーに写す。自転車計測はカウントに写す。
自転車計測による過小防止係数について。最初の400mのカウントに1.001をかける。
- ・自転車計測の技術
A データを取る
 - ① カリブレーションコース（直線・正確な距離）を作る。
 - ・カリブレーションコースの例 大阪女子 出雲ハーフ等
 - ・安全確保について サインボード等を使用し安全を確保
 - ・コースの作成検定メジャーを伸ばす（30分程度）。みんなで持って引きずらないように運ぶ。50mごとにガムテープに落とす。温度補正をして鋸を打つ。堅くて打ち込めない場合もある。補正は焦らずに計算を。ミスをしなない。
- ② カリブレーションをまっすぐ走る。
 - 1 カウント間違えると9mくらい誤差が出る。まっすぐ走れるよう普段から練習する必要がある。同時に上り坂の練習

習をするとよい。体幹を使って漕ぐようにするのがよい。

- ③ 最短で走る。
コースを間違えて急激に戻ると誤差が大きい。コースをはずれてもゆっくり徐々に戻ると誤差が少なくてすむ。障害物をゆっくり回避できない場合、前輪をロックして平行移動するという方法もある。

- ④ 計測計画を立てる。
コースをどのように計測するかを事前に計画しておく。
B データを処理する
C 報告書を作成する
以上のことが必要になる。しっかり計測を行っていたきたい。

2. 自転車計測の計画について（講師：福島信久検定員）

- (1) 自転車計測の事前調査について
 - A. 窓口の確認
連絡担当者の確認が必要。コースがわかる人と話をしておく。
 - イ. 計測計画書について。計測計画を事前に送付して確認しておく。
事前調査書について。コース名の確認を。スタート・折り返し・フィニッシュ地名は名称と住所にする。カリブレーションコースも事前に確認を。
 - ウ. 競技時点と同じコースでの計測の計画
 - エ. 計測日程の調整
申請者・担当者（責任のある人）には必ずいてもらう。
 - オ. 準備物の確認 車の表示等を確認。
 - カ. 宿舎や計算場所の準備
- (2) 計測までの打ち合わせ
 - A. 事前調査の確認
 - イ. カリブレーションの確認
 - ウ. 安全の確認
保険には必ず入ってもらう。事前に確認する。逆走等ある場合の警備について。安全第一で計画を立てる。警備会社に依頼。
 - エ. 調整方法の確認
折り返しで調整かフィニッシュで調整かスタートで調整か。事前に決めておく。
 - オ. 準備品の再確認
 - カ. 計測スケジュールの確認

3. IAAF / AIMS 参考事項（講師：陸連事務局 関幸生）

- (1) IAAF 規則に規定される自転車計測員がすべきこと
ロードレースを「世界記録」公認とするため IAAF / AIMS が規程している中に自転車計測員は位置づけられている。
※ IAAF = 国際陸上競技連盟 AIMS = 国際マラソンロードレース協会
ルールブック P.423 ◀◆▶ の意味
IAAF のみの認証も申請が可能（日本は必ず A 級か B 級が計測するため）
国内のみの大会も申請を英文で IAAF に申請すれば IAAF 認証をもらえる（しかも無料）。IAAF 認証があれば世界記録・アジア記録・オリンピック・世界陸上標準記録も認められ、地元レース主催者に世界を目指す大会かを確認を。AIMS 会員にならなくてもよい（AIMS の会員になるには年会費が必要）
※ コースの再計測について
日本は3名で計測するが他国では1名で計測することが多い。そのため「コースの再計測」が義務づけられているが、※ 2名以上で計測が実施されれば～不要、となっている。
今日のこの会議も（参加者の氏名・生年月日含む）IAAF に報告し、認証されている。この会議後事後報告書を提出すれば皆さんは C 級計測員として認証される。英語のレポー

トは数字が多く英語に関しては事務局でもサポートしますので積極的にレポートを作成・提出して下さい。

4. 申請の手順について (講師:平塚和則委員長)

- ・様式2認定申請書の変更点について
「公認大会として了承する」欄を増やした。公認大会をやらぬのに公認を取るの認められない。公認を持っているコースで大会をやっていないコースが多数ある。毎年コースが若干違、記録の公認に関するトラブル等が多発している。次回公認申請時に県陸協が印を押さなければ申請はできない。
- ・その他申請者・計測員に送付する資料について
委嘱状・派遣費用・保険加入について(依頼)・機材の準備について(依頼)・機材一覧・計測計画・事前調査書についての説明。
- ・提出する書類について
経路図・カリブレーション図(英語を横に書く)は必ず提出する。
- ・IAAF / AIMS 認証コース一部変更の報告について
100~200m程度の変更ならメジャーで計測しても可。しっかりと報告をする。

5. 自転車計測の報告書作成について (苅込英昭検定員)

報告書を効率よく作成するための手順について説明。計測時には日本陸連の様式と自転車計測における報告書の2種類を作成する。

(1) カリブレーションコース

①作成

カリブレーション作成時から報告書を意識する。鉄を打った点の3点ポイントを取っておく。

②プレ・ポスト

(2) 報告書の作成

PCのみでなく手計算のものとも照合する。

- ①鋼製巻尺のデータシート 小数点3位以下は切り捨て
- ②カリブレーションデータシート
- ③コース計測データシート 計算ミスがないか確認する。
- ④対比表

最も短い距離の数字を採用する。どこで距離を調整するかを検討してもらう。ポイント修正は+はフィニッシュの方に-はスタートの方にポイントを移動する。当日ポイント図はある程度作成し、清書は申請者をお願いする。誰が見てもコースの状況がわかるように報告書を作成する。誰がやっても同じ結果になるように意識して計測の精度を上げてほしい。

【第2日】

司会(飯村光夫検定員)

実技

カリブレーションコース(200m)の作成

(講師:苅込検定員 飯村検定員 福島検定員)

ガムテープの貼り方、印の付け方メジャーの扱い等についてカウンターの取り付け・自転車の扱いについて

(講師:松川検定員 梶原検定員 桑原検定員)

自転車前輪の取り外し・カウンターの取り付け・自転車の調整方法について

会議

1. 公認道路コースの報告書(演習) (講師:苅込英昭検定員)
プレ・ポストカリブレーションのカウンターの数字、各キロポイントのカウンターの数字を元に「コース計測データ」様式を実際に計算し完成させた。
2. 公認道路コースの報告書(演習) (講師:苅込英昭検定員)
午前中に完成させた「コース計測データ」を元に報告書を完成させ、解説を行った。
3. 公認道路コース計測の各種事例 (講師:梶原龍士検定員)
(1) 大会当日の計測の留意点
 - ・事前確認事項の徹底について
危険を回避するために、しっかりと確認しておく。
 - ・計測後の計算場所の確保 確実に場所を確認する
 - ・状況に応じた臨機応変な対応 過去の福岡国際マラソ

ンの例

(2) 大会日以外での計測の留意点

大会実施日以外に計測を行うときの準備品や留意点についての説明。早朝暗い時からやる場合にはライト等の準備が必要。警察の協力を得る。交通量が多い場合等互いにコミュニケーションをとることが必要。伊万里ハーフマラソンの実施計画書例

4. 自転車計測の課題と問題点 (講師:平塚和則委員長)

①自転車計測の歴史

養成セミナーを1994年名古屋で初めて実施。以後今回を含めて10回の計測員会議を行っている。それを経てやっと各都道府県に1名以上計測員を置くことができた。

②自転車計測の問題点

経験の差により検定結果にばらつきが出たりする。経験がものを言う。しっかりと経験を積んでほしい。

③規程の変更について

公認大会を開催する競走路のみを日本陸連の公認を与えることに。12月の理事会で承認された。

各資料の説明

・認定申請書

競走路名を記載 例 ぐんま県民(長)
スタートフィニッシュ地点 なるべく地点名がほしい。ルールブックに記載するので長くはできない。各県陸協に公認大会を行うのか確認するように伝えてほしい。

・細則改定案

下線を引いてあるところが変更点。コースの選定における留意点も追加された。添付書類に関して。ワイヤー計測でも同様に提出する。

・実測報告書について

セパレーション・エレベーションは距離ごとに記入する。申請の距離すべてを記入する。

・対比表について

最短の距離を出した人の数字を使うが、状況によりチームリーダーの判断でそうでない場合があってもよい。

・AIMSのウェブサイト 日本では20の大会が会員または準会員になっている

・国際計測員の一覧

2~3年に1度セミナーがある。5泊6日。C級の計測員が行く。希望者は申し出るように。

質疑応答

- ・世界記録等認められるのはA級かB級が計測しなければならないか?←しなければならない。
- ・計測員基準について。年齢がきて一気に計測員がいなくなる恐れがある場合、前もって計測員を増やせないか。また、B級、A級の計測員をもっと増やせないか。←国際的には人数が少ないわけではない。後継者については考えている。全員をB級に上げる訳ではない。技量の問題もある。現在は基準に従って行うつもりでいる。いろいろな意見があることはわかっている。基準も良い方向に変えていかなければならない。
- ・新申請書について。他用紙に変更は出るか?←改良はするが大きな変更はない。

修了証授与

代表で山形県・高橋氏に委員長から授与

閉会挨拶

(平塚和則委員長)

昨日からありがとうございました。たくさんのご意見をいただくことができた。この2年間しっかりと計測していただきたい。



第2日 実技
ジョーンズカウンターの取り付け

第17回・第18回JAAFコーチング・クリニック報告

普及育成委員会 櫻田 淳也

JAAFコーチング・クリニックは、主に中学、高校で陸上競技の指導にあたっている方々を対象に、指導ノウハウのブラッシュアップをすることを目的に開催している。2014年度は、東京（2015年1月24日（土）・味の素ナショナルトレーニングセンター）と神戸（2015年2月11日（祝・水）・アシックス神戸本社）の2会場にてアシックスジャパン株式会社と共催で開催した。また、本講習会は日本体育協会公認スポーツ指導者「義務研修」としても行われた。2014年度のクリニックは、同年に活躍した選手の指導者が講師として登壇したこともあり、各会場、定員100名の募集に対して満員の状況であった。

東京会場では、岡田雅次先生（国士舘大学）、櫻井健一先生（国際武道大学）、神戸会場では中村康先生（千葉・市立船橋高校）、藤田昌彦先生（山口・周陽中学校）が講師を務め、各講師から指導に対する考え方や、具体的なトレーニング方法等の講習が行われた。

岡田先生は、国士舘大学で女子やり投第一人者の海老原有希選手（スズキ浜松AC）、10月後半の長崎国体男子やり投で86m83の日本歴代2位のビッグスローを披露し、仁川アジア大会銀メダリストの新井涼平選手（スズキ浜松AC）ら数々の投てき選手を指導されてきたのみならず、十種競技の日本記録保持者の右代啓祐選手（スズキ浜松AC）も指導された。

櫻井先生は、日本陸上競技連盟強化委員会ハードル部長であり、2014年の日本選手権男子110mハードルで13秒58の日本歴代6位の記録で優勝し、仁川アジア大会の代表に選出された増野元太選手を指導している。また、櫻井先生自身も選手として13秒67の記録を持っており、1999年セベリア世界選手権の代表でもあった。実技では、増野選手がアシスタントとして参加し、模範演技を披露した。

中村先生は、先日行われた長崎国体の男子800mで1分48秒08の高校新記録を樹立した前田恋弥選手を指導している。

藤田先生は、2014年5月に男子100mで10秒56の中学新記録を樹立した、宮本大輔選手を指導している。

〈第17回〉

○岡田雅次先生（国士舘大学）

講義では指導に対する考え方、実技では基礎体力と総合的な運動能力を重視した体幹トレーニングを実施した。岡田先生の指導のポイントは分け隔てなく選手と接することであった。「強い選手も弱い選手も、たまたま弱いだけであって、同じグラウンドで同じ練習をする。そして同じようにリスペクトする」。特に大学1、2年生に対しては、技術の指導以前に、立ち方、歩き方から厳しい指導を徹底している。3、4年生や卒業生の選手に対しては、一方的に指導者の指導方法押し付けるのではなく、選手から聞かれない限りアドバイスはしない。ただし、質問されたことに対しては全て答えられるように頭の中では様々なことを常に考えており、選手の声を聞くことが何より重要であることを受講者に伝えていた。卒業後も多くの選手が、実業団で活躍しているひとつの要因は、基礎の徹底と、選手の自主性を尊重する指導スタイルにあるのだろう。



実技指導においては、基礎体力と総合的な運動能力を重視した体幹トレーニングを行った。②基礎体力を養うような地道な積み重ねが重要である。①テクニックを磨くようなトレーニングを重視しがちであるが、シャフトやメデイシンボールを使った様々なトレーニング方法の指導が行われたが、飽きさせないような工夫も見られ楽しめる内容になっていた。

○櫻井健一先生（国際武道大学）

講義では、ハードリング技術の修得方法について、実技では増野元太選手が実際に行っているドリルの実践が行われた。12秒台の選手はハードル間（9.14m）を1sec未満で走る。ハードリングは踏み切りから着地、インターバルランと一連の流れとして考えることが大切であることを指摘した。その中でもハードリング動作の最重要課題として踏切の重要性を挙げ、連続写真を用いて「踏み切り」、「空中動作」、「着地動作」の説明を行った。櫻井先生が指導している国際武道大学では、「バランス」「効率的トレーニング」「基礎の徹底」「継続は力なり」「目的意識の明確化」の5つの要素を重視しており、基礎の徹底が結果につながることを強調した。

実技は、JISS（国立スポーツ科学センター）の中にある陸上競技実験場に移動して行った。講義の中で説明したドリルの内容を実際に行い、受講者から随時質疑応答する形で進められた。



〈第18回〉

○中村康先生（千葉・市立船橋高校）

長崎国体の男子800mで1分48秒08の高校新記録を樹立した前田恋弥選手の年間トレーニング計画や、大会に向けての具体的なスケジュールについて説明がされた。中村先生は、前田選手が1年生時には、市立船橋高校の短距離を担当しており、実際に指導に関わったのは2年生からであった。中村先生自身は学生時代長距離選手であったが、短距離の指導経験から「短距離がやっても効果があるものは、長距離が取り組んでも良いかもしれない」と考え、長距離選手ではあまり行わない「ハードルドリル」と「メディシンボール投げ」を行った。特に冬季練習では、「砂浜ダッシュ」に力を入れて行った。そうした短距離のトレーニングの効果があり、前田選手は疲れてくると設置が内側に入ってクロスする癖があったものが改善されていったことがひとつの成功要因となったとのことであった。



○藤田昌彦先生（山口・周陽中学校）

宮本大輔選手を指導するにあたっては基本的な動作の修得に注力したことと、技術的な指導はスタートの一步目を大きくすること以外には特に行っておらず、フィニッシュの技術については中学生の時期に修得する必要は特になく考えていた。また、練習内容は、怪我をさせないように特に気をつけており、具体的には、練習ではタイムを測らないようにしていた。タイムを測ると力んでしまい、怪我の元になるという考えを持たれていた。指導の考え方としては、選手に対して一方的に指導するのではなく、宮本選手に限らず部員一人ひとりと面談をして、目標を決めて各自で内容を考えさせるように取り組んでいるとのことであった。



【総括】

第17回、第18回のコーチング・クリニックの4名の講師から共通したことは、基本技術の徹底である。特に、岡田先生は歩き方、立ち方の指導、体幹トレーニング等、各種目の専門的な技術指導以前の段階の指導に注力していた。それは、櫻井先生、中村先生、藤田先生にも同様で、基本

技術の習得を徹底することが重要であると指摘していた。

また、中村先生の様に短距離の指導経験が中長距離の指導に活かすことができたように、ある特定の種目に特化して知識や経験を深めることも重要であるが、様々な種目に精通することも指導者として求められることなのではないだろうか。その意味では、日本陸連の方針としてタレントトランスファーを意識して選手に対して様々な種目を経験することを推奨しているが、指導者においても走・投・跳の基本的な指導方法を修得することは指導者自身のスキルアップにも繋がるのが期待される。

そして、選手との接し方についても、選手と1対1で向き合うことが重要であり、一方的に指導者の考え方を押し付けるのではなく、選手一人ひとりの声に耳を傾け、各々にあった目標、課題設定をすることが望ましい姿であると考えられる。選手の将来を見据えて、指導者が目の前の選手に対して何をすべきか、大局観に立つことも重要であろう。

受講者からのアンケートでは、90%以上の人がコーチング・クリニックの内容について満足を得た結果となり、「クリニックの回数を増やして欲しい」という要望や「全国的に開催して欲しい」という要望もあり、今後の方向性として検討していきたい。



【受講者に対するアンケート調査】

今回受講者に対して、16種目の指導状況についてアンケート（複数回答）を取ったところ（表1）のような結果となった。最も指導されている種目は短距離が95%、次に走幅跳75%、中距離71%、ハードル69%であった。また、指導者1人あたりの指導種目数は平均で約7種目であった。今後も継続して指導者の現状について調査していきたい。

表1 コーチング・クリニック受講者の指導種目

種目	東京会場 (N=85人)		神戸会場 (N=78人)		合計 (N=163人)	
	人数	%	人数	%	人数	%
短距離	81	95%	74	95%	155	95%
走幅跳	57	67%	66	85%	123	75%
中距離	58	68%	57	73%	115	71%
ハードル	58	68%	54	69%	112	69%
長距離	45	53%	64	82%	109	67%
リレー	51	60%	50	64%	101	62%
砲丸投	46	54%	38	49%	84	52%
走高跳	35	41%	43	55%	78	48%
駅伝	31	36%	39	50%	70	43%
三段跳	26	31%	24	31%	50	31%
円盤投	31	36%	19	24%	50	31%
混成	26	31%	22	28%	48	29%
棒高跳	13	15%	11	14%	24	15%
やり投	6	7%	15	19%	21	13%
ハンマー投	17	20%	2	3%	19	12%
競歩	2	2%	8	10%	10	6%

国際陸上競技連盟(IAAF)医事アンチ・ドーピングコミッション会議報告

理事・医事委員長 山澤 文裕 (IAAF 医事アンチ・ドーピングコミッション委員)

長年、国際陸上競技連盟 (IAAF) 本部の医事アンチ・ドーピング部 (MADD) 部長を務めていたガブリエル・ドレ先生が2014年10月に引退して、初めての医事アンチ・ドーピングコミッション (MADC) 会議がモナコにて2015年2月6、7日に開催された。MADDはトーマス・カプダビル弁護士 (アンチ・ドーピング担当) とピエール・イブ医師 (医事・科学担当) の二頭体制となり、担当と責任を明確にしたMADDの機構改革が行われた。2015年8月のカウンシル選挙後に行われるコミッション委員の入れ替えまで、アロンソ医師がMADC委員長である。

会議の冒頭、ニック・デービスIAAF事務次長が、今後3年間の競技会日程を示したあと、昨年秋よりヨーロッパで報道されている世界的に有名なロシアのマラソン選手のドーピングに関連した金銭の授受およびロシアの組織的なドーピングについての話があり、世界アンチ・ドーピング機構 (WADA) とIAAFが協力して今年中に解明することを明らかにした。WADAは分析機関やロシアスポーツ界に関して担当し、IAAFはロシア陸連を調査する。本件はIAAFを大きく揺れ動かし、IAAF財務担当理事であった渦中の人物、ロシア陸連会長が辞任した。WADAとIAAFの調査結果次第では、陸上競技だけではなく、ロシアスポーツ界全体に波及する一大スキャンダルとなるであろう。

1. アンチ・ドーピング

2014年に行われたアンチ・ドーピング活動として、結果管理機関がIAAFである競技会検査 (ICT) は1696検体 (うち705検体はEPOを含む) であった。約40%がマラソン大会、約25%がダイヤモンドリーグやチャレンジミートで採取された。IAAF主催大会におけるICTは465検体 (うち153検体がEPOを含む) であった。ケニア、エチオピア、アメリカの競技者が多く、日本人も国別では7番目に多かった。国内で開催されるマラソン大会で検査対象になることが多いことが反映されたと考えられる。一方、競技会外検査 (OOCT) 対象となるIAAF検査対象登録リスト (RTP) 競技者は571選手で、1802検体が採取された。アスリートバイオロジカルパスポート (ABP) による血液検査は408検体であった。IAAFの検査では316選手が、違反が疑われる分析報告を受け、うち102選手がアンチ・ドーピング規則違反と判断された。

2015年の検査予定では、北京世界陸上では大会3週間前よりRTP競技者を中心に精力的に競技会外血液検査と尿検査が実施される。デグ世界陸上2011より全参加選手に実施されてきた競技会前血液検査は、継続して受ける可能性のあるRTP競技者中心へと対象選手を減らす、EPO検査やGH検査に関しては、WADAのSports Specific Analysis (SSA) に基づいて検査が大幅に増加されて実施される。

2015世界アンチ・ドーピング規程 (WADC2015) に基づき、IAAFアンチ・ドーピング規則と規定が改訂された。これまでIAAFは独自色をだしていたが、WADC2015に従ったものとなった。各国アンチ・ドーピング機関 (NADO) とのTUE相互承認については、NADOを認めるのか、薬剤を認

めるのか、議論を行ったが、最終的にはNADO承認となった。しかし、全NADOとは決定せず、IAAFの認めるNADOに落ち着きそうである。

IAAFはヘルシンキ世界陸上2005より全メダリストの尿検体を保管している。WADC2015で検体保管期間が10年に延長され、今年がちょうど10年目になる。保存していた尿検体を最初に再検査したのはIOCで、アテネオリンピック2004の検体を2012年に再分析を行い、陸上金メダリストを含む選手のドーピングを検出した。IAAFが2012、2013年に再検査を行った際には、約6%の検体で禁止物質を検出した。WADAは新しい検査法が開発された時点で再検査を行うことを勧めているが、IAAFでは新しい検査法が開発されたときに直ちに行うか、10年間ギリギリ待って行くか、さらに議論することとなった。

2. メディカル

1) 高アンドロゲン (HA) 女性選手

IAAFはHA女性選手が競技会に参加してよいかを決めるためのプロトコルを策定している。デグ世界陸上2011での血液検査で、ほとんどすべての女性競技者の血清テストステロン濃度は4ng/ml以下であることが判明しているが、中には血清テストステロン濃度10ng/ml以上を示すものがある。これらが高アンドロゲン女性選手であり、競技能力が一般女性よりも高いと考えられる。異常値を示す場合には、早期治療が望ましいため、早期発見できる体制を作ることが重要であると指摘された。

2) 障害疾病予防について

障害予防のためのモジュールをフランス陸連とともに作成している。日本の競技者も競技レベルを問わず、下記ウェブサイトを活用していただきたい。

<http://www.athle.fr/asp.net/main.html/html.aspx?htmlid=4175>

3) サプリメントの汚染問題

南アフリカのラグビー連盟がサプリメントの禁止物質による汚染について調査した。南アフリカで使用されている138種のサプリメントのうち、118種に何らかの禁止物質が混入していたと驚くべき報告がなされた、わが国においてもサプリメント使用によるアンチ・ドーピング規則違反があるため、ますますサプリメントには注意が必要である。

4) TUE申請について

成人発症ADHD (注意欠陥・多動性障害) のアンフェタミン使用に対するTUEが増えている。非常に取り扱いが難しい例が多いので、IAAFでは成人発症ADHDの禁止物質使用に関するTUEプロトコルを策定した。インスリン使用の申請がいくつかあり、国際レベル競技者でも糖尿病患者が多いことが明らかとなった。

5) 熱中症に関する研究

北京世界陸上におけるマラソン選手や競歩選手における熱中症研究について検討し、承認した。これは、研究に同意した選手に競技2時間前に球状の体温計を飲んでもらい、競技中の深部体温をモニターし、競技直後に血液電解質濃度などパフォーマンスと関連した様々な測定を行うものである。熱中症とパフォーマンスに関する研究が大いに進むものと考えられる。

大会観戦ガイド

第99回日本陸上競技選手権大会50km競歩 兼第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 男子50km競歩代表選手選考競技会 第54回全日本競歩輪島大会

50km競歩の日本選手権が迫りました！日本トップウォーカーたちが今夏に中国・北京で開催される世界選手権の日本代表を懸けて争います。熱い競演にご期待ください！

▼種目・スタート時間：

4月18日(土)全日本競歩輪島大会

男子全日本10km競歩	13時00分
男子ジュニア10km競歩	13時00分
女子全日本10km競歩	13時05分
女子ジュニア10km競歩	13時05分

4月19日(日)日本選手権

50km競歩	7時30分
--------	-------

4月19日(日)全日本競歩輪島大会

女子高校1・2年 3km競歩	9時00分
女子高校 5km競歩	9時30分
男子高校1・2年 3km競歩	10時30分
男子高校 5km競歩	11時30分

▼コース：輪島市文化会館周回コース

・日本陸上競技連盟公認競歩コース
(1周2kmの周回コース)

▼アクセス：(石川県輪島市文化会館付近)

石川県輪島市文化会館は「道の駅 ふらっと訪夢」前。「道の駅 ふらっと訪夢」へは能登空港からふるさとタクシーを利用。能登空港発着便に合わせて利用可能(要予約)。

- ・運賃一律900円(1人/片道:輪島市内)
- ・予約先
港タクシー株式会社
TEL:0768-22-2360

▼問合せ：輪島市教育委員会生涯学習課 スポーツ推進室

全日本競歩輪島大会
実行委員会事務局
TEL:0768-23-1176

▼日本陸連WEBサイト 内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1271/>



昨年の男子50km競歩は、谷井孝行選手が日本歴代2位の記録で優勝を果たした

第17回長野マラソン

1998年に開催された長野冬季オリンピックを記念して1999年より開催の長野マラソン。エムウェーブ、ホワイトリンク、ピックハットなどのオリンピックが開催された会場前を通るコースに、10,000人が集います。

▼日時：4月19日(日) 8時30分スタート

▼コース：長野マラソン長距離競走路

(スタート)長野市吉田・長野運動公園

(フィニッシュ)長野市篠ノ井東福寺・長野オリンピックスタジアム

▼アクセス：

・長野運動公園

長野電鉄「朝陽駅」下車、徒歩約15分

JR篠ノ井線「北長野駅」下車、徒歩約20分

・長野オリンピックスタジアム

JR篠ノ井線「篠ノ井駅」下車、徒歩約30分、

長野駅・篠ノ井駅よりシャトルバス

▼問合せ：長野マラソン大会組織委員会事務局

TEL:026-234-6380

(受付時間：平日9:30~17:00)

▼日本陸連WEBサイト内大会ページ：

<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1272/>

▼大会公式WEBサイト

<http://www.naganomarathon.gr.jp>



2014年大会のスタートの様子

写真提供：長野マラソン大会組織委員会事務局

JAAF
SHIGA

一般財団法人滋賀陸上競技協会

〒520-0037 大津市御陵町4-1 皇子山陸上競技場内2-1室
TEL.077-527-3925 FAX.077-527-3925
http://www.biwako.ne.jp/~srkshiga/

全国都道府県対抗駅伝

皇后盃第33回全国女子駅伝(京都) 30位 2時間23分22秒
天皇盃第20回全国男子駅伝(広島) 35位 2時間24分59秒
冬の都大路を駆け抜けた皇后盃全国女子駅伝。平和記念公園スタート・フィニッシュの天皇盃全国男子駅伝。共によく健闘しましたが、標記の結果となりました。滋賀県では平成36年(2024年)に2巡目国体も内定し、強化元年の年を迎えました。その先陣を切ったの戦いでしたが、よく言われる「詰めの甘さ」が出てしまいました。滋賀の中長距離強化の見直しを迫られているところです。ところで、例年の事とはいえ、京都滋賀県人会、広島滋賀県人会の皆様には大変お世話になりました。熱い声援を頂き、ありがとうございました。また、大会終了後には、県人会等で、選手・監督等へ労いと健闘を称えて頂き、「来年も都大路で、広島で、走るぞ」という決意を選手諸君は持ったようです。今後とも熱い声援とご支援をよろしくお願ひします。

**JAAF**
KYOTO

一般財団法人京都陸上競技協会

〒615-0872 京都市右京区西京極南衣手町57番2
TEL.075-322-5500 FAX.075-322-5501
http://www.krk26.jp/

昨年12月に開催された全国中学駅伝に桂中学校が男女ともに出場し、女子チームが見事に優勝を遂げました(写真左)。一昨年出場の檜原中学校は惜しくも準優勝でしたので、その悔しさを同じ京都市の中学校が引き継ぎ栄冠を勝ち取りました。京都の駅伝の強さがここにも発揮されています。

「京都マラソン2015」を、2月15日に開催し、約15,000名のランナーが都大路を駆け抜けました。今回から京都府立植物園内や京都市役所前などの京都市内中心部をコースに取り込むことで完走率もアップし、大いに盛り上がった大会となりました。

(文責:広報部長 相模浩史)



全中駅伝で活躍した桂中学校



京都マラソンのフィニッシュの様子

JAAF
OSAKA

一般財団人大阪陸上競技協会

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-1 ヤンマースタジアム長居内
TEL.06-6697-8899 FAX.06-6697-8766
http://www.oaaa.jp/

皇后盃女子駅伝優勝祝賀会裏話

「こんなに忙しいのはたまりまへんなあ。」喜びも愚痴もとれる多忙な日々を送っているのは当協会種元事務局長である。ホテルとの打合せ、案内状発送、記念品づくりと準備に忙殺される傍ら、2月の2週目には日本室内ジュニア大阪大会が控えている。おまけに春には評議員、役員改選期が待ち受ける。しかしやはり優勝はするもの。皇后盃全国都道府県対抗女子駅伝大会での3年ぶり優勝はほんとうにうれしいものです。今回はわずか1秒差の接戦を制したものであり、それを手中に取めた選手の力走にほんまに感謝。ただし、1秒差で後位となった他府県勢の悔しさは比類なきものと見込まれ、雪辱に燃える強豪都道府県との来年の激戦が予想される。さてさてとは言っても大阪としてはこの勢いが途切れることなく連覇、圧勝といきたいところです。全国高校女子駅伝を初制覇した大阪薫英女学院高校とそのOGが主力のチームは、必ずや来年も活躍してくれるであろう。と期待しつつ、準備に励む毎日でした。

第2回木南記念陸上 国内主力ハードラー大阪に(ヤンマースタジアム長居)

5月10日(日)、ヘルシンキオリンピック110mH代表として活躍した故木南道孝元会長(元日本陸連副会長、元大阪陸協会長)の功績を記念した「第2回木南道孝記念陸上競技大会」をヤンマースタジアム長居において開催いたします。2020東京オリンピック・パラリンピックで戦えるハードル選手を育成しようというもので、男子110mH、女子100mH、男女400mHなどに国内の主力選手が出場する予定です。

JAAF
HYOGO

一般財団法人兵庫陸上競技協会

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号
神戸市生涯学習支援センター内
TEL.078-231-1771 FAX.078-231-1772
http://www.haaa.jp/index2.html

第4回神戸マラソンが11月23日に開催されました。クォーターマラソン1,783人を合わせた19,380人が参加。好天にも恵まれ、完走率は97.8%となりました。沿道に61万人の切れ目のない応援を受けて、ランナー達は快進で走ることができたと思います。

男子第69回・女子第30回兵庫県都都市区対抗駅伝競走大会が、2月1日に加古川河川敷コースで開催されました。「駅伝兵庫」と言われる基礎となっている大会です。今季限りで引退を表明した小林祐梨子選手(豊田自動織機)も地元小野市から出場し、ありがたいの応援を受けて晴れやかな笑顔でラストランしました。

第98回日本陸上競技選手権大会男女20km競歩大会が、六甲アイランド甲南大学公認コースで2月15日に開催されました。昨年に続き、高橋英輝選手(岩手大学)が日本新記録で優勝し、非常に盛り上がった大会となりました。

第11回「世界遺産姫路城マラソン」が2月22日に行われました。小雨降る中、ファンランを含めて9,235人のランナーが姫路城を背に大手前通りをスタートし、三の丸広場でゴールする光景は、軍師黒田官兵衛ゆかりの地を駆け抜ける、歴史のロマンを感じさせる大会でもありました。

4月18・19日の県記録会が平成27年度競技会の皮切りとなります。4月25・26日には第63回兵庫リレーカーニバルが実施されます。この大会は「第15回世界陸上」の選考競技会を兼ねており、選手達のパフォーマンスが楽しみです。

陸協NEWS



JAAF
NARA

一般財団法人奈良陸上競技協会

〒630-8113 奈良市法蓮町349-1 コーポラス一条415号
TEL.0742-27-2312 FAX.0742-27-2312
http://www.narariku.com/

昨年11月9日、地域活性化助成事業として、「小学生陸上教室」を開催いたしました。当日はあいにくの天候で屋内での活動となりましたが、県内のクラブチームより百数十人の子供たちが参加してくれました。講師としてミズノトラッククラブの菅井洋平・飯塚翔太・和田麻希選手、チームミズノアスレティックの松下祐樹選手というトップアスリートの皆さんに参加いただきました。講師の皆さんのわかりやすい説明と楽しみながら行える活動により、陸上競技を含む身体活動の楽しさを満喫することができました。

また、午後からは高校選抜選手を対象に技術指導をしていただきました。トップ選手から動きづくり等の説明を直接受けられる機会に、高校生たちは終始緊張感を漂わせていました。今回の研修により、冬季トレーニングの目標が明確になり、来シーズンに大きな成果を残してくれるものと期待しております。



JAAF
WAKAYAMA

一般財団法人和歌山陸上競技協会

〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内
TEL.073-444-3662 FAX.073-444-3662
http://wariku.com/

“いよいよ”紀の国わかやま国体(10/2~10/6)・全国障害者大会(10/24~10/26)・全国高校総合体育大会(7/29~8/2)が開催される2015年度がスタートします。本県にとりましては、大変な覚悟と取り組みが必要です。とりわけ和歌山国体の開催が決定してからは、県民一丸となり天皇杯獲得を目指して準備をすすめてまいりました。大会メイン会場の紀三井寺陸上競技場・補助陸上競技場の改装もなり、各都道府県の皆様をお迎えする体制が整いつつあります。県内の津々浦々まで国体機運が高まり、スタッフの一人ひとりにもひしひしと伝わってくる昨今です。本協会では、和歌山国体において100点獲得・総合優勝を目標に選手強化を図ってまいりました。国体最終日の10月6日に陸上競技総合優勝を手に行きたいことを願い、残された半年間にすべての力を結集してまいります。

また、全国高校総合体育大会の開催にあたっては、国体以上の緊張感を持って準備を進めております。競技運営をあらゆる点で精査し、高校生のトップアスリートが遺憾なく競技力を発揮できるよう精一杯大会運営に努める所存です。

各都道府県の皆様の御来県を心よりお待ちしております。

(文責:強化普及委員長 川村栄司)

JAAF
TOTTORI

一般財団法人鳥取陸上競技協会

〒680-0944 鳥取市布勢146-1
コカ・コーラウエストスポーツパーク陸上競技場(第2研修室)
TEL.0857-28-6540 FAX.0857-28-6540
http://www.hal.ne.jp/trk/

2月5日ジャマイカチームの鳥取キャンプ正式決定の朗報が届きました。8月の北京世界陸上の事前キャンプ誘致運動をしていましたが、可能性は低いのではと一時はあきらめかけていました。2007年大阪世界陸上の事前キャンプ成功の実績があるとはいえ、世界のジャマイカとなっている今、誘致実現の困難さは日ごとに重いものとなっていきました。12月にジャマイカよりワッツ氏が来県し、視察と果への表敬。良い感触を得てはいましたが、正式な返事が来るまでは悶々とした日々を過ごしていました。全国には優れた競技場と関連施設を持つ都道府県が多々あり、過去の実績と我々の熱意がどこまで伝わるのかという勝負でもありました。書簡の最後に、鳥取陸協や関係者の努力や熱意が十分に伝わったこと、そして2007年鳥取キャンプでの親切、寛大なもてなしへの感謝、鳥取での大きな経験を今でも大切にしていると記されていました。このキャンプを鳥取陸上の活性化につなげたいと考えています。2020東京五輪へ向けて、鳥取らしい確かな1歩を踏み出したと実感しています。

(文責:専務理事 新田明彦)

JAAF
SHIMANE

一般財団法人島根陸上競技協会

〒690-0015 松江市上乃木10-4-1 松江市営陸上競技場内
TEL.0852-23-6686 FAX.0852-23-6686
http://www.shimariku.jp/index.html

平成27年1月24日(土)・25日(日)に一般財団法人島根陸上競技協会常務理事会並びに理事会を開催し、栄章受章者と、各専門委員会、専門部の中間報告、平成27年度の行事予定、役員改選について審議しました。理事会後には島根陸上競技協会栄章授与式を行い、功労章6名、勲功章3名、優秀指導者章11名、優秀選手章23名の方々に細田重雄会長より授与されました。

平成27年4月待ちに待ったトラックシーズンが幕を開けます。4月5日(日)「第70回穴道湖一周駅伝競走大会」が開催されます。松江市営陸上競技場を発着し7区間61.2kmを1部(市町村対抗)、2部(クラブ等の対抗)、3部(高校対抗)で競われます。昨年は参加標準記録を設けたため、例年より10チーム以上参加が減り、58チームの参加がありました。この大会は、戦後間もない昭和21年5月に6区間19チームの参加により産声を上げ、今年度は第70回の記念大会となりました。記念大会のイベントとして、昨年度全国高校駅伝優勝校の世羅高校を招待し、レースに花を添えて戴きたいと計画しております。また、4月11日(土)~12日(日)には「吉岡隆徳記念第69回出雲陸上競技大会」が開催されます。日本陸上競技連盟の後援をいただき、毎年多くの招待選手を招き、男女招待100m・300m、招待高校男子5000m、招待高校女子3000mのレースを行います。現在今年の招待選手の選考中ですが、この4月号が発売される頃には記者発表があると思います。招待選手並びに地元選手の活躍を期待しています。

(文責:総務委員長 矢野力)

